

ダイコロ株式会社柔道部ジャカルタ遠征報告書

ダイコロ株式会社
大阪府枚方市招提田近 2-8

期 間 令和4年10月20日(木)から10月24日(月)
参加者 ダイコロ株式会社代表取締役社長 松本 秀作
ダイコロ株式会社柔道部 責任者 三好 伊知郎
ダイコロ株式会社柔道部 監督 吉菌 勇太
ダイコロ株式会社柔道部 選手 一ノ瀬 大暉 (-81kg)
ダイコロ株式会社柔道部 選手 手柴 宗一郎 (-66kg)
ダイコロ株式会社柔道部 選手 小田 春樹 (+100kg)
受入先 ジャカルタジャパン柔道クラブ 安齋俊哉氏

◆ 経緯と目的 ◆

今回のインドネシア訪問の経緯ですが、2019年に私共ダイコロ株式会社柔道部が全日本実業柔道連盟に所属していることもあり、松本の発案で東南アジアの柔道選手で留学するのは経済的に難しくても、日本に来て働きながら柔道を学ぶ機会を作れないかということで日本の講道館の上村館長にご相談申し上げました。

その後、講道館国際部様よりジャカルタジャパン柔道クラブの安齋氏をご紹介いただき、2020年コロナ禍の合間を縫ってQORI(コーリ)選手が来日し3ヶ月ではありましたが就業しながら柔道の練習に励みました。日本の実業団の試合にも出場する予定でしたが、残念ながらコロナにより全てキャンセルとなり滞在期間を終え帰国いたしました。

今年に入りコロナ対策も緩和され、QORI選手が日本での長期の就業と柔道の練習環境を希望していることもあり、また、QORI選手も過日行われたSEA GAMES(東南アジア大会)でインドネシア代表として大活躍するなど来日に向け機運が高まりつつあることから安齋氏にアテンドをお願いし、10月23日のジャカルタジャパン祭り柔道の部にご招待いただくこととなりました。

また、2020年のQORI選手の来日に際し、ジャカルタのビヌス大学とインターンシップ協定を締結しました。こちらの協定もコロナにより中断しておりましたので、今回の滞在中にインターンシップ再開のミーティングの機会を持つことも目的のひとつでした。

最後に、弊社ダイコロ株式会社は日本で卒業アルバムメーカーをしております。今までも、台湾、ベトナムと日本の文化である卒業アルバムを海外に展開し、その文化の素晴らしさを世界に知っていただくべく活動しております。今回、柔道を通じてインドネシアと繋げていただいたご縁を大切に、インドネシアでも卒業アルバムの文化を広げる活動を展開すべく日本大使館とジャカルタジャパンクラブ(商工会議所)を表敬訪問させていただきました。

◆ 旅程報告 ◆

■10月20日（木）

22：00 責任者三好以下選手監督5名で関西国際空港よりインドネシアジャカルタへ入国

■10月21日（金）

午前 ジャカルタ市内観光

夕方 プラパガディン体育館で安齋先生主宰のジャカルタジャパン柔道クラブ
練習参加（小学生から大人まで約60名）



■10月22日（土）

午前 チロトにて吉蘭監督選手3名とインドネシアナショナルチーム（約30名）と合同練習



インドネシアナショナルチーム選手と



インドネシアナショナルチーム監督、コーチ、チームマネジャーと

夕方 松本代表取締役社長がジャカルタ到着

■10月23日（日）

午前 プラパガディン体育館にてジャカルタジャパンクラブ主催の文化事業
ジャカルタジャパン祭り柔道の部参加
(ジャカルタ市内の柔道選手、関係者総勢 220 名参加)



インドネシア柔道連盟副会長（右）、ナショナルチームマネージャー（左）と



JJJC 会長より記念品授与

■10月24日(月)

8:30 ジャカルタ ビヌス大学訪問 インターンシップ再開に向けミーティング





10 : 00 在インドネシア日本大使館表敬訪問 金杉特命全権大使と



11:00 ジャカルタジャパクラブ表敬訪問 小倉事務局長様と
ジャカルタジャパクラブ（会員数 法人部会 689 社 個人部会 1400 名） 2022 年 3 月現在



14:00 吉蘭監督・選手 3 名 ラグナンの道場にて JJJC 練習参加（中学生、高校生約 30 名）



15 : 00 松本、三好
ジャカルタジャパンクラブ愛媛県人会でジャカルタ日本人学校、チカラン日本人学校の学校運営委員 久保様と面談
インドネシアの日本人学校でのアルバム製作状況ヒアリング

22 : 00 ジャカルタ発 翌 10 月 25 日 10 : 00 関西国際空港到着

◆ まとめ ◆

今回のインドネシア訪問において柔道では JJJC とナショナルチームとの親善交流により今後の相互協力関係が構築でき、非常に有意義な交流となりました。また、来年度の QORI 選手の再来日も決まり日本の実業柔道界にとってもグローバル化促進へ前進したと感じます。

アルバム文化の海外展開についても金杉大使と JJC 様からはインドネシアでの展開について力強い後押しのお言葉をいただきました。また、ビヌス大学においては卒業アルバムに対し大きな理解と関心を得ることができ、日本人学校のアルバム製作の課題についてもヒアリングにより弊社で解決できるものがほとんどであったことから台湾、ベトナムと同様にインドネシアの日本人学校で日本の高品質な卒業アルバムを手にとっていただく日も近いと実感いたしました。